

特別講演 2

「排尿障害治療の pitfall、最近の話題も含めて」

福井大学医学部 泌尿器科学 教授

横山 修 先生

生活習慣病で一般医家通院中の女性患者の排尿障害と治療意向に関する実態調査によれば、40 から 80 歳代の 20.5~29.2%に排尿に対しての悩みや心配が存在し、その患者の 79.6%が泌尿器科医でなく「かかりつけ医」で治療を受けているという報告があります（泌尿器外科 24 : 1965-1973, 2011）。また、排尿障害が治るのであればどこで治療を受けたいか、という質問に対しては 68.8%が「かかりつけ医」での診察を希望しています。一般医家のうち前立腺肥大症の治療を行っている先生は 7 割と報告されていますが、PSA 検査については「患者の希望時のみ」「行っていない」が 6 割以上で（Prog. Med. 31 : 591-595, 2011）、PSA 検査に関しては、前立腺癌の発見契機としての有用性は認知されているにもかかわらず実施には至らないことも多いと考えられます。一般医家の先生方が排尿障害の診療を行うにあたり、誤りやすい pitfall を中心に解説させていただきます。